

別 表 一

一(1)	連盟公認審判員資格の種類と略号			
		シングル・ペア	アイスダンス	シンクロ
	ナショナル・レフェリー級	NR	NRD	NRS
	ナショナル級	N	ND	NS
	A級	A	AD	AS
	B級	B	BD	BS
	テスト級	T	TD	TS
	プレリミナリー級	P	PD	PS

一(2)	連盟公認技術役員資格の種類と略号				
	テクニカル・コントローラー	シングル	ペア	アイスダンス	シンクロ
	ナショナル級	NTC	NTCP	NTCD	NTCS
	A級	ATC	ATCP	ATCD	ATCS
	B級	BTC	BTCP	BTCD	BTCS
	テスト級	TTC	TTCP	TTCD	TTCS
	テクニカル・スペシャリスト	シングル	ペア	アイスダンス	シンクロ
	ナショナル級	NTS	NTSP	NTSD	NTSS
	A級	ATS	ATSP	ATSD	ATSS
	B級	BTS	BTSP	BTSD	BTSS
	テスト級	TTS	TTSP	TTSD	TTSS
	データ/リプレイ・オペレーター	シングル、ペア、アイスダンス、シンクロ共通			
	ナショナル級	NDRO			
	A級	ADRO			
	B級	BDRO			
	テスト級	TDRO			

一(3)	ISU公認レフェリー、ジャッジ資格の種類と略号			
		シングル・ペア	アイスダンス	シンクロ
	ISUレフェリー	ISR	ISRD	ISRS
	国際レフェリー	INR	INRD	INRS
	ISUジャッジ	ISJ	ISJD	ISJS
	国際ジャッジ	INJ	INJD	INJS

一(4)	ISU公認技術役員資格の種類と略号				
	テクニカル・コントローラー	シングル	ペア	アイスダンス	シンクロ
	国際	INTC	INTCP	INCD	INTCS
	ISU	ISTC	ISTCP	ISCD	ISTCS
	テクニカル・スペシャリスト	シングル	ペア	アイスダンス	シンクロ
	国際	INTS	INTSP	INTSD	INTSS
	ISU	ISTS	ISTSP	ISTSD	ISTSS
	データ/リプレイ・オペレーター	シングル、ペア、アイスダンス、シンクロ共通			
	国際	INDRO			
	ISU	ISDRO			

別 表 二 ～ (1)

審判員申請のための資格区分

[シングル・ペア]

資格区分	経 歴
S-1	全日本フィギュア・スケート選手権大会 シングル10位以内の者、ペア3位以内の者
S-2	バッジ・テスト シングル6級以上の保持者、全日本ジュニア選手権ペア3位以内の者
S-3	バッジ・テスト シングル1級以上の保持者で競技会に参加した事がある者
S-4	無級、初級及びシングル、ダンスのどの競技会にも参加した事が無い者

[アイスダンス]

資格区分	経 歴
D-1	全日本フィギュア・スケート選手権大会 アイスダンス3位以内の者
D-2	バッジ・テスト アイスダンス・シルバー級以上の保持者
D-3	バッジ・テスト アイスダンス第2プレミナリー級以上の保持者で競技会に参加した事がある者
	シングル・ペア審判資格B級以上である者
D-4	無級、第1プレミナリー級及びダンス、シングルのどの競技会にも参加した事が無い者

※ バッジ・テスト規定第40条にあるマスターコースでのバッジ・テスト級は認められない

※ マスター競技会参加は選手歴があるとは考慮されない

[シンクロ]

資格区分	経 歴
Sy-1	全日本シンクロナイズド・スケーティング選手権大会出場の経験を有する者
	シングル・ペア審判資格A級以上、アイスダンス審判資格AD級以上である者
Sy-2	上記以外の者でシングルまたはダンス、シンクロの競技会に参加した事がある者
	シングル・ペア審判資格B級、アイスダンス審判資格BD級である者
Sy-3	シンクロあるいはシングル、ダンスのどの競技会にも参加した事が無い者

※ 初回登録申請区分は変更できない

別 表 二 ～ (2)

〔シングル〕

昇格申請の級区分		T級申請	B級申請	A級申請	N級申請	NR級申請
現在の審判員資格 資格区分		P級	T級	B級	A級	N級
S-1	全日本10位以内	—	1年	2年	3年	6年
S-2	バッジ・テスト6級以上	—	2年	3年	4年	6年
S-3	バッジ・テスト1～5級	1年	2年	4年	5年	6年
S-4	無級、初級、競技歴無し	4年	4年	4年	5年	6年

適用》表の見方：S-2資格の審判員はA級を申請するためにはB級審判員として3年の経験が必要である
(P級：プレミナリー・シングル級、役員の略号参照のこと)

〔アイスダンス〕

昇格申請の級区分		TD級申請	BD級申請	AD級申請	ND級申請	NRD級申請
現在の審判員資格 資格区分		PD級	TD級	BD級	AD級	ND級
D-1	全日本3位以内	—	1年	2年	3年	6年
D-2	バッジ・テストS級以上	—	2年	3年	4年	6年
D-3	バッジ・テスト2P～PS級、または最初の申請時シングル/ペアB級以上	1年	2年	3年	5年	6年
D-4	無級、1P、競技歴無し	4年	4年	4年	5年	6年

適用》表の見方：D-1資格の審判員はND級を申請するためにはAD級審判員として3年の経験が必要である
(PD級：プレミナリー・ダンス級、役員の略号参照のこと)

〔シンクロ〕

昇格申請の級区分		TS級申請	BS級申請	AS級申請	NS級申請
現在の審判員資格 資格区分		PS級	TS級	BS級	AS級
Sy-1	全日本シンクロ大会出場経験者、または最初の申請時シングル/ペアA級、あるいはアイスダンスAD級以上	—	3年	4年	5年
Sy-2	シンクロ競技会経験者、または最初の申請時シングル/ペアB級、あるいはアイスダンスBD級	1年	3年	4年	5年
Sy-3	競技歴無し	4年	4年	4年	5年

摘要》表の見方：Sy-1資格の審判員はAS級を申請するためにはBS級審判員として4年の経験が必要である
(Sy：シンクロナイズド、PS級：プレミナリー・シンクロナイズド級、役員の略号参照のこと)

別表三 《審判シングル／ペア》

三(1)	T級申請資格 (規程第9条第1項を満足すること)	1. ① 別表二～(1)の資格区分S-1、S-2の経験を有すること ② プレミナリー・シングル級(P級)として、各年1回以上役員として活動をし、都道府県連部長の承認があること。 2. ① S-1, S-2: 資格取得後、セミナーを受講する事。 ② P級: 申請年度に先立つスケート年度の連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加していること。
三(2)	B級申請資格 (申請時T級であり、右の全要件を備えること)	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下①、②の活動を満たしていること。 ① 連盟または加盟団体が主催または主管し、若しくは連盟がジャッジ団の派遣を要請された競技会(以下、単に「地方大会を含む競技会」という)において、ジャッジまたはトライアル・ジャッジとしての活動を各年1回以上行っていること。 ② バッジ・テストで、ジャッジとしての活動を各年1回以上行っていること。(もし、この条件を満たす事ができない時は地方大会におけるジャッジ活動を置き換えることができる、但し重複カウントは不可) ③ 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 申請年度に先立つ2シーズン内に1回以上スケート年度の連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加していること。
三(3)	A級申請資格 (申請時B級であり、右の全要件を備えること)	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下①、②の活動を満たしていること。 ① 地方大会を含む競技会においてジャッジとしての活動を各年1回以上行っていること。 ② バッジ・テストで、ジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。(もし、この条件を満たす事ができない時は地方大会におけるジャッジ活動を各シーズン1回置き換えることができる、但し重複カウントは不可) ③ 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 連盟主催のジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において2回以上参加していること。また、申請年度に先立つスケート年度のジャッジズ・セミナー参加は必須。 3. 申請年度に先立つ2シーズン内に後添いの競技大会表(三)に定めるいずれかの競技会のシングルのジャッジ団の一員として1回以上活動を行っていること。 4. 申請年度の連盟主催のジャッジ昇格テストに合格すること。
三(4)	N級申請資格 (申請時A級であり、規程第12条第1項を満足し、右の全要件を備えること) <u>新スケート年度の7月1日前に満60歳に達する者は申請することができない。</u> <u>しかしND級あるいはNS級有資格者は60歳の制限を受けない</u>	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下①、②の活動を満たしていること。 ① 地方大会を含む競技会においてレフェリー又はジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。(連盟公認TTC級以上の資格保持者で、もしこの条件を満たす事ができない時は、地方大会におけるTC活動をジャッジ活動として数えられる) ② バッジ・テストで、ジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。(もし、この条件を満たす事ができない時は地方大会におけるジャッジ活動を各シーズン1回置き換えることができる、但し重複カウントは不可) ③ 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 連盟主催のジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において3回以上参加していること(S-1資格の審判員は必要経験年数3年のうち2回以上)。また、申請年度に先立つスケート年度のジャッジズ・セミナー参加は必須。 3. 必要経験年数間において、後添いの競技大会表(二)、(三)に定めるいずれかの競技会のシングルのジャッジ団の一員としての活動を各年1回以上行っていること。 4. 申請年度の連盟主催のジャッジ昇格テストに合格すること。
三(5)	NR級申請資格 (申請時N級であり、右の全要件を備えること) あるいは国際レフェリー資格を取得した者はNR級資格を得ることができる	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下①、②の活動を満たしていること。 ① 地方大会を含む競技会においてレフェリー又はジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。(連盟公認TTC級以上の資格保持者で、もしこの条件を満たす事ができない時は、地方大会におけるTC活動をジャッジ活動として数えられる) ② バッジ・テストで、ジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。(もし、この条件を満たす事ができない時は地方大会におけるジャッジあるいはレフェリー活動を各シーズン1回置き換えることができる、重複カウントは不可) ③ 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 連盟主催のジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において3回以上参加していること。また、申請年度に先立つスケート年度のジャッジズ・セミナー参加は必須。 3. 必要経験年数間において、レフェリーとしての経験を3回以上行っており、そのうち後添いの競技大会表(一)、(二)、(三)に定めるいずれかの競技会でシングルのレフェリーを2回以上行い、レフェリーとして十分な活動を行っていること。 4. 申請年度の連盟主催のレフェリー昇格テストに合格すること。

※申請年度＝新スケート年度

スケート年度は7月1日から翌年6月30日

※審判・レフェリー・役員実績は、IJSで行われた競技会のみをカウントする。

※昇格申請年度のバッジ・テスト及び地方競技会の回数については昇格申請申込締切日までとする。

※T級申請に必要な役員活動とは、競技会、バッジテスト等での活動を指します。

2021年シーズン以降はジャッジ又はトライアルジャッジのみ実績となります。

別表三(2) 《審判シングル／ペア申請資格》 早見表

T級申請資格(第9条)	審判実績	バッジ・テスト	セミナー	必要経験年数			
S-1,S-2、P級資格者であること。	P級:各年1回以上役員として活動をし、都道府県連部長の承認があること。	-	S-1,S-2:取得後、受講すること。 P級:申請年度の前年度のセミナーを受講すること。	S-1	S-2	S-3	S-4
	第1項新スケート年度の7月1日より前に満 20 才に達していること、または当該カレンダーイヤーに満70歳に達しないこと。			-	-	1年	4年

B級申請資格(第10条)	審判実績	バッジ・テスト	セミナー	必要経験年数			
T級資格者であること。	各年1回以上地方連盟主催の競技会において、ジャッジ・トライアルジャッジとして活動実績があること。	各年1回以上	申請年度に先立つ2シーズン内に1回以上受講すること。	S-1	S-2	S-3	S-4
		審判実績をこの回数に置き換えることが可能。(重複カウント不可)		1年	2年	2年	4年

A級申請資格(第11条)	審判実績	バッジ・テスト	セミナー	必要経験年数			
B級資格者であること。	各年1回以上(地方大会を含む)	各年2回以上	2回以上	S-1	S-2	S-3	S-4
	申請年度に先立つ2シーズン内に競技大会表(三)のいずれかの大会で1回以上ジャッジ実績があること。	内1回は審判実績をこの回数に置き換えることが可能。(重複カウント不可)	申請年度に先立つスケート年度のジャッジズ・セミナー参加は必須。	2年	3年	4年	4年
	昇格試験(筆記+実技)に合格すること。						

N級申請資格(第12条)	審判実績	バッジ・テスト	セミナー	必要経験年数			
A級資格者であること。	各年2回以上(地方大会含む)レフェリー又はジャッジ(連盟公認TTC級以上の資格保持者で、もしこの条件を満たす事ができない時は、地方大会におけるTC活動をジャッジ活動として数えられる)	各年2回以上	3回以上(S-1資格の審判員は必要経験年数3年のうち2回以上)	S-1	S-2	S-3	S-4
	必要経験年数間において、競技大会表(二)、(三)に定めるいずれかの競技会のシングルのジャッジ団の一員としての活動を各年1回以上行っていること。	内1回は審判実績をこの回数に置き換えることが可能。(重複カウント不可)	申請年度に先立つスケート年度のジャッジズ・セミナー参加は必須。	3年	4年	5年	5年
	第1項新スケート年度の7月1日より前に満60歳に達しないこと。しかしND級あるいはNS級有資格者は60歳の制限を受けない 昇格試験(筆記+実技)に合格すること。						

NR級申請資格(第13条)	審判・レフェリー実績	バッジ・テスト	セミナー	必要経験年数			
N級資格者であること。	各年2回以上(地方大会含む)レフェリー又はジャッジ(連盟公認TTC級以上の資格保持者で、もしこの条件を満たす事ができない時は、地方大会におけるTC活動をジャッジ活動として数えられる)(重複カウント不可)	各年2回以上	必要経験年数間に3回以上	S-1	S-2	S-3	S-4
	必要経験年数間において、レフェリーとしての経験を3回以上行っており、そのうち後添いの競技大会表(一)、(二)、(三)に定めるいずれかの競技会でシングルのレフェリーを2回以上行い、レフェリーとして満足な活動を行っていること。	内1回はジャッジあるいはレフェリー活動をこの回数に置き換えることが可能。(重複カウント不可)	申請年度に先立つスケート年度のジャッジズ・セミナー参加は必須。	6年	6年	6年	6年
	昇格試験(筆記+実技)に合格すること。 国際レフェリー資格を取得した者はNR級資格を得ることができる。						

※申請年度＝新スケート年度 スケート年度は7月1日から翌年6月30日

※審判・レフェリー・役員実績は、IJSで行われた競技会のみをカウントする。

※昇格申請年度のバッジ・テスト及び地方競技会の回数については昇格申請申込締切り日までとする。

※T級申請に必要な役員活動とは、競技会、バッジテスト等での活動を指します。

2021年シーズン以降はジャッジ又はトライアルジャッジのみ実績となります。

別表四 《審判アイスダンス》

四(1)	TD級申請資格 (規程第15条第1項を満足すること)	1. 別表二～(1)の資格区分D-1、D-2の経験を有すること、又はプレミナリー・ダンス級(PD級)として、1年以上満足な活動をしていること。
四(2)	BD級申請資格 (申請時TD級であり、右の全要件を備えること)	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下の活動を満たしていること。 地方大会を含む競技会、又はバッジ・テストでアイスダンス・ジャッジとしての活動を各年1回以上行っていること。 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 申請日の属するスケート年度の連盟主催のアイスダンス・ジャッジズ・セミナーに参加していること。
四(3)	AD級申請資格 (申請時BD級であり、右の全要件を備えること)	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下の活動を満たしていること。 地方大会を含む競技会又はバッジ・テストにおいて、アイスダンス・ジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 申請日の属するスケート年度においては、後添いの競技大会表(一)～(三)に定めるいずれかの競技会において、アイスダンス・ジャッジとしての活動を1回以上行っていること。 3. 連盟主催のアイスダンス・ジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において2回以上参加していること。また、申請日の属するスケート年度のアイスダンス・ジャッジズ・セミナー参加は必須。
四(4)	ND級申請資格 (申請時AD級であり、規程第18条第1項を満足し、右の全要件を備えること) <u>第1項新スケート年度の7月1日より前に満60歳に達する者は申請することができない。</u> しかしN級あるいはNS級有資格者は60歳の制限を受けない。	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下の活動を満たしていること。 地方大会を含む競技会又はバッジ・テストでアイスダンスのレフェリー又はジャッジとしての活動を、各年2回以上行っていること。 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 連盟主催のアイスダンス・ジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において3回以上参加していること(D-1資格の審判員は必要経験年数3年のうち2回以上)。また、申請日の属するスケート年度のアイスダンス・ジャッジズ・セミナー参加は必須。 3. 申請日の属するスケート年度においては、後添いの競技大会表(一)に定めるいずれかの競技会において、アイスダンス・ジャッジとしての活動を1回以上行っていること。 4. 申請年の連盟主催のアイスダンス・ジャッジ昇格テストに合格すること。
四(5)	NRD級申請資格 (申請時ND級であり、右の全要件を備えること) あるいは国際レフェリー資格を取得した者はNR級資格を得ることができる	1. 昇格のための必要経験年数[別表二～(2)]の間、継続して以下の活動を満たしていること。 地方大会を含む競技会又はバッジ・テストにおいて、アイスダンスのレフェリー又はジャッジとしての活動を各年2回以上行っていること。 地方大会、バッジ・テストの活動回数に関して、申請年度においては申請締切日までの回数が申請要件としてみなされる。 2. 連盟主催のアイスダンス・ジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において3回以上参加していること。また、申請日の属するスケート年度のアイスダンス・ジャッジズ・セミナー参加は必須。 3. 必要経験年数間において、アイスダンス・レフェリーとしての経験を3回以上行っており、そのうち後添いの競技大会表(一)～(三)に定めるいずれかの競技会において、アイスダンス・レフェリーを2回以上行い、レフェリーとして満足な活動を行っていること。 4. 申請年の連盟主催のダンス・レフェリー昇格テストに合格すること。

注釈

※申請年度＝新スケート年度

※ジャッジ・レフェリー・役員実績は、IJSで行われた競技会のみをカウントする。

別表五 《審判シンクロナイズド・スケーティング》

五(1)	TS級申請資格 (規程第21条第1項を満足すること)	1. 別表二～(1)の資格区分Sy-1の経験を有すること、又はプレミナリー・シンクロナイズド級(PS級)として、1年以上満足な活動をしていること。
五(2)	BS級申請資格 (申請時TS級であり、右の要件を備えること)	1. 昇格のための必要経験年数〔別表二～(2)〕の間、継続して以下の活動を満たしていること。 申請日の属するスケート年度の連盟主催のシンクロナイズド・ジャッジズ・セミナーに参加していること。
五(3)	AS級申請資格 (申請時BS級であり、右の要件を備えること)	1. 昇格のための必要経験年数〔別表二～(2)〕の間、継続して以下の活動を満たしていること。 連盟主催のシンクロナイズド・ジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において2回以上参加していること。また、申請日の属するスケート年度のシンクロナイズド・ジャッジズ・セミナー参加は必須。
五(4)	NS級申請資格 (申請時AS級であり、規程第24条第1項を満足し、右の全要件を備えること) 新スケート年度の7月1日より前に満60歳に達する者は申請することができない。 しかしN級あるいはND級有資格者は60歳の制限を受けない	1. 昇格のための必要経験年数〔別表二～(2)〕の間、継続して以下の活動を満たしていること。 地方大会を含む競技会において、シンクロナイズドのレフェリー、ジャッジ又はトライアル・ジャッジとして必要経験年数間に1回以上行っていること。 2. 連盟主催のシンクロナイズド・ジャッジズ・セミナーに、必要経験年数間において3回以上参加していること。また、申請日の属するスケート年度のシンクロナイズド・ジャッジズ・セミナー参加は必須。 3. 申請年の連盟主催のシンクロナイズド・ジャッジ昇格テストに合格すること。

注釈

※申請年度＝新スケート年度

※ジャッジ・レフェリー・役員実績は、IJSで行われた競技会のみをカウントする。

別表 六 《審判降格》

※申請年度＝新スケート年度

六(1)	NR級の降格→N級 1. に関して3スケート年度間に一度も参加しなかった場合降格する。	1. ISUまたは連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加すること。
六(2)	N級の降格→A級 1. に関して3スケート年度間に一度も参加しなかった場合降格する。	1. ISUまたは連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加すること。
六(3)	A級の降格→B級 1. に関して3スケート年度間に一度も参加しなかった場合降格する。	1. ISUまたは連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加すること。
六(4)	B級の降格→T級 1. に関して4スケート年度間に一度も参加しなかった場合降格する。	1. ISUまたは連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加すること。

別表 七 《審判復帰》

七(1)	降格したT級→B級への復帰申請資格 右の要件を備えること	1. 申請日の属するスケート年度に、連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加すること。
七(2)	降格したB級→A級への復帰申請資格 右の全要件を備えること	1. 申請日の属するスケート年度に、連盟主催のジャッジズ・セミナーに参加すること。 2. 申請年度の連盟主催のジャッジ昇格テストに合格すること。
七(3)	降格したA級→N級への復帰申請資格 右の全要件を備えること	1. ISUまたは連盟主催のジャッジズ・セミナーに2スケート年度間連続して参加すること。 2. 申請年度の連盟主催のジャッジ昇格テストに合格すること。
七(4)	降格したN級→NR級への復帰申請資格 右の全要件を備えること	1. ISUまたは連盟主催のジャッジズ・セミナーに2スケート年度間連続して参加すること。 2. 申請年度の連盟主催のレフェリー昇格テストに合格すること。

* 七(1)、(2)、(3)、(4)の規定は、それぞれの適用年度(NR級、N級、A級は2スケート年度、B級は1スケート年度)に限り有効である。

別 表 八 《国際及びISU資格》

八(1)	国際ジャッジの新規指名申請資格 右の全要件を備える者	1. シングル・スケーティングでは連盟公認審判員資格N級以上、アイスダンスではND級以上あるいはシンクロナイズド・スケーティングではAS級以上であること。 初めて国際審判員を申請する際には所属連盟フィギュア部長の推薦が必要である。 2. ISU規程第413条第1項の要件を満たしていること。
八(2)	国際ジャッジの継続指名申請資格	ISU規程第413条第2項の要件を満たしていること。
八(3)	ISUジャッジの新規指名申請資格	ISU規程第413条第3項の要件を満たしていること。
八(4)	ISUジャッジの継続指名申請資格	ISU規程第413条第4項の要件を満たしていること。
八(5)	国際レフェリーの新規指名申請資格	ISU規程第412条第1項の要件を満たしていること。
八(6)	国際レフェリーの継続指名申請資格	ISU規程第412条第2項の要件を満たしていること。
八(7)	ISUレフェリーの新規指名申請資格	ISU規程第412条第3項の要件を満たしていること。
八(8)	ISUレフェリーの継続指名申請資格	ISU規程第412条第4項の要件を満たしていること。

別 表 九 《技術役員》

※申請年度＝新スケート年度

九(1)	連盟公認テクニカル・コントローラー申請資格	<p>1. 連盟公認テクニカル・コントローラー資格の新規取得および昇格にあたっては、連盟が開催するテクニカル・オフィシャル・セミナー（以下「TO セミナー」と記載）で実施される認定試験等を受け、その結果に基づき、シングル TTC 級、BTC 級、ATC 級あるいは NTC 級、アイスダンス TTCD 級、BTCD 級、ATCD 級あるいは NTCD 級の資格に認定される。なお、認定試験等の結果によっては資格を得ることができないあるいは降格となる場合がある。</p> <p>2. シングル TTC 級、BTC 級、ATC 級及び NTC 級、アイスダンス TTCD 級、BTCD 級、ATCD 級及び NTCD 級の資格を更新するためには、少なくとも3年に一度は TO セミナーの要項により指定されるシングルあるいはアイスダンスのテクニカル・コントローラーのコースに参加し、認定試験等を受けなければならない。なお、TO セミナーに講師として参加した場合でも、本要件を満たしたものとする。</p> <p>3. 資格更新にあたっては、九(1) 2 を満たすことにより7月1日時点で資格が更新されることとなり、特段の申請は不要である。</p> <p>4. 九(1) 2 における「TO セミナーの要項により指定されるシングルあるいはアイスダンスのテクニカル・コントローラーのコース」については「ISU 規程第417条で定められるテクニカル・コントローラー向けの ISU セミナー」に置き換えることができるものとする。</p>
九(2)	連盟公認テクニカル・スペシャリスト申請資格	<p>1. 連盟公認テクニカル・スペシャリスト資格の新規取得および昇格にあたっては、TO セミナーで実施される認定試験等を受け、その結果に基づき、シングル TTS 級、BTS 級、ATS 級あるいは NTS 級、アイスダンス TTSD 級、BTSD 級、ATSD 級あるいは NTSD 級の資格に認定される。なお、認定試験等の結果によっては資格を得ることができないあるいは降格となる場合がある。</p> <p>2. シングル TTS 級、BTS 級、ATS 級及び NTS 級、アイスダンス TTSD 級、BTSD 級、ATSD 級及び NTSD 級の資格を更新するためには、少なくとも3年に一度は TO セミナーの要項により指定されるシングルあるいはアイスダンスのテクニカル・スペシャリストのコースに参加し、認定試験等を受けなければならない。なお、TO セミナーに講師として参加した場合でも、本要件を満たしたものとする。</p> <p>3. 資格更新にあたっては、九(2) 2 を満たすことにより7月1日時点で資格が更新されることとなり、特段の申請は不要である。</p> <p>4. 九(2) 2 における「TO セミナーの要項により指定されるシングルあるいはアイスダンスのテクニカル・スペシャリストのコース」については「ISU 規程第417条で定められるテクニカル・スペシャリスト向けの ISU セミナー」に置き換えることができるものとする。</p>
九(3)	連盟公認データ/リプレイ・オペレーター申請資格	<p>1. 連盟公認データ/リプレイ・オペレーター資格の新規取得および昇格にあたっては、TO セミナーで実施される認定試験等を受け、その結果に基づき、TDRO 級、BDRO 級、ADRO 級あるいは NDRO 級の資格に認定される。なお、認定試験等の結果によっては資格を得ることができないあるいは降格となる場合がある。</p> <p>2. TDRO 級、BDRO 級、ADRO 級及び NDRO 級の資格を更新するためには、少なくとも3年に一度は TO セミナーの要項により指定されるデータ/リプレイ・オペレーターのコースに参加し、認定試験等を受なければならない。なお、TO セミナーに講師として参加した場合でも、本要件を満たしたものとする。</p> <p>3. 資格更新にあたっては、九(3) 2 を満たすことにより7月1日時点で資格が更新されることとなり、特段の申請は不要である。</p> <p>4. 九(3) 2 における「TO セミナーの要項により指定されるデータ/リプレイ・オペレーターのコース」については「ISU 規程第417条で定められるデータ/リプレイ・オペレーター向けの ISU セミナー」に置き換えることができるものとする。</p>
九(4)	国際テクニカル・コントローラー新規申請資格	<p>1. 連盟公認シングル ATC 級以上、アイスダンス ATCD 級以上であること。</p> <p>2. 実用的な英語力を有しており、連盟主催の英語試験に合格すること。</p> <p>3. ISU 規程第414条第1項の要件を満たしていること。</p>
九(5)	国際テクニカル・コントローラー継続申請資格	<p>1. ISU 規程第414条第2項の要件を満たしていること。</p>
九(6)	ISU テクニカル・コントローラー新規・継続申請資格	<p>1. ISU 規程第414条第3項、第4項の要件を満たしていること。</p>

九(7)	国際テクニカル・スペシャリスト 新規申請資格	1. シングルは全日本フィギュア選手権大会において24位以内、アイスダンスは全日本フィギュア選手権大会アイスダンス競技に出場、あるいは同等の実績のある者。 2. 連盟公認シングルATS級以上、アイスダンスATSD級以上であること。 3. 実用的な英語力を有しており、連盟主催の英語試験に合格すること。 4. ISU規程第415条第1項の要件を満たしていること。
九(8)	国際テクニカル・スペシャリスト 継続申請資格	1. ISU規程第415条第2項の要件を満たしていること。
九(9)	ISUテクニカル・スペシャリスト 新規、継続申請資格	1. ISU規程第415条第3項、第4項の要件を満たしていること。
九(10)	国際データ/リプレイ・オペレーター 新規申請資格	1. 連盟公認ADRO級以上であること。 2. 実用の英語力を有しており、連盟主催の英語試験に合格すること。 3. ISU規程第416条第1項の要件を満たしていること。
九(11)	国際データ/リプレイ・オペレーター 継続申請資格	1. ISU規程第416条第2項の要件を満たしていること。
九(12)	ISUデータ/リプレイ・オペレーター 新規、継続申請資格	1. ISU規程第416条第3項、第4項の要件を満たしていること。

公認審判員・技術役員 資格認定試験について【明確化】

審判員

- ・ NR級、NRD級、N級、ND級、A級は筆記試験と実技試験（面接含む）の両方に合格することを条件とする。
- ・ 単一年度に筆記試験合格で実技試験不合格、又は何らかの理由で実技試験を受験できなくなった者は、翌年に限り筆記試験は免除される。ただし、自動的に免除されるのではなく当該年度の実験申請は新規申請書で行うこととする。
- ・ 単一年度に筆記試験を免除された者が、実技試験不合格、又は何らかの理由で実技試験を受験できなかった場合は、翌年度は改めて新規申請を行うこととする。
- ・ NS級の昇格試験は筆記試験のみとする。

技術役員

- ・ 新規資格取得者、昇格希望者、および資格変更者を対象とした資格認定試験

(1) TOセミナーの要項の定めに基づき実施

- ・ 国際資格申請のための英語試験

(1) TOセミナー時に行われる英語セッションの実技で行う。

- ・ 昇格はT級資格からB級資格、B級資格からA級資格、A級資格からN級資格となり飛び級は無い。ただし、無級の場合には、B級資格の新規認定が認められるものとする。

競技役員年齢制限一覧表(カレンダーイヤー)

(公財)日本スケート連盟

審判員	新スケート年度の7月1日時に20歳以上、70歳未満であること 但しN級、ND級、NS級の新規申請は新スケート年度の7月1日より前に60歳に達していないこと しかし、既に他カテゴリーのN級審判員を有する者は60才の制限を受けない
技術役員	新スケート年度の7月1日時に20歳以上、70歳未満であること 但し新規申請は新スケート年度の7月1日前にTC、TS:55才、DRO:50才に達していないこと

* 民法143条〔年齢計算〕では、年齢は誕生日の前日に加算される。しかし、フィギュア部では年齢基準を誕生月とする

国際スケート連盟

レフェリー	新スケート年度の7月1日より前に70歳に達しないこと
ジャッジ	新スケート年度の7月1日時に24歳以上、70歳未満、国際ジャッジ新規申請は60歳に達していないこと
テクニカル・コントローラー	新スケート年度の7月1日より前に70歳に達しないこと
テクニカル・スペシャリスト	新スケート年度の7月1日時に24歳以上、70歳未満
データ/リプレイ・オペレーター	新スケート年度の7月1日より前に70歳に達しないこと

※スケート年度＝ 毎年7月1日に始まり、翌年6月30日に終わるスケート事業年度

(公財)日本スケート連盟主催主管競技大会表(兼 大会別資格別申請一覧)

<シングル・ペア>

	大会名	J	TC	TS	DRO
(一)	a) 全日本フィギュアスケート選手権大会	N級以上	N級	A級以上	N級
	b) 全日本ジュニア フィギュアスケート選手権大会				
(二)	a) 東日本フィギュアスケート選手権大会	A級以上	B級以上	A級以上	A級以上
	b) 西日本フィギュアスケート選手権大会				
	c) 東日本ジュニア フィギュアスケート選手権大会				
	d) 西日本ジュニア フィギュアスケート選手権大会				
	e) 全日本/全日本ジュニア選手権大会ペア予選会				
	f) 全日本ノービス フィギュアスケート選手権大会				
(三)	a) 地域ブロック大会(シニア、ジュニア、ノービス)	B級以上	B級以上	B級以上	B級以上
	b) 国民体育大会冬季大会スケート競技会				
	c) 全日本学生氷上競技選手権大会				
	d) 全国高校氷上競技選手権大会				
	e) 全国中学校スケート競技会				
	f) 国民体育大会予選会				
	g) 東日本学生フィギュアスケート選手権大会				
	h) 西日本学生フィギュアスケート選手権大会				

※TC, TSのペアを除く。

<アイスダンス>

	大会名	J	TC	TS	DRO	
(一)	a) 全日本フィギュアスケート選手権大会	A級以上	A級以上	A級以上	N級	
	b) 全日本ジュニア フィギュアスケート選手権大会					
(二)	a) 東日本フィギュアスケート選手権大会	B級以上	B級以上	A級以上	A級以上	
	b) 西日本フィギュアスケート選手権大会					
	c) 東日本ジュニア フィギュアスケート選手権大会					
	d) 西日本ジュニア フィギュアスケート選手権大会					
	e) <u>全日本/全日本ジュニア選手権大会アイスダンス予選会</u>					<u>B級以上</u>
	f) 全日本ノービス フィギュアスケート選手権大会					
(三)	a) 地域ブロック大会(シニア、ジュニア、ノービス)	B級以上	B級以上	B級以上	B級以上	
	b) 全日本学生氷上競技選手権大会					

<シンクロ>

	大会名	J	TC	TS	DRO
(一)	a) 全日本シンクロナイズド・スケーティング選手権	B級以上	-	-	A級以上
	b) 全日本ジュニアシンクロナイズド・スケーティング選手権				